



ペンギんぐみだより

5月



2021年5月6日 保土ヶ谷保育園
ペンギん組担任

最近の子どもたちの様子

新年度から1か月が過ぎ、新しい環境にもだいぶ慣れてきた子どもたち。朝一番から園庭で遊ぶようになると、ぱんだ組・きりん組さんの真似をして、登り棒や竹馬などに挑戦してみたり、鉄棒の下に敷くマットに興味を持ち、タイヤや三輪車と組み合わせて新たな遊びを作りだしたり、遊び方が変わってきました。楽しそうな友だちと一緒に遊びたいけれど、遊具の数やスペースにも限界があり、貸してもらえない、仲間に入れてもらえないことがあります。そんな時、本人たちの話をしっかり聞いて受け止め、それぞれに誤解が生じないように間に入り、やり取りが上手いくようサポートします。お子さんの、友だち関係の話を聞いて気になることがありましたら、気兼ねなくご相談ください。

今月の活動

- 野菜栽培…お世話する中で、気づきや不思議、収穫への期待をみんなで共有していきたいと思います。
- 園庭の砂場遊びでは水を使って遊びたいようです。乳児組さんとの兼ね合いなどを考慮し、園庭遊びが発展し楽しんでいきたいです。

英語レッスンが始まりました

4月12日、英語講師ニコール先生と遊びながら英語に親しみました。絵カードを見て、色や果物を英語で言ってみたり、並べたカードからニコール先生が言った色のカードを選んできたり、最初は遠巻きに傍観していた子も興味を持ち始め、楽しそうな様子でした。後日、「先生、英語やらないの?」と聞いてきたり、虹色のカメレオンを見て、みんなで色を英語で言ってみたり、英語がちょっぴり身近なものになってきました。

英語レッスンは毎月1~2回を予定しています。今はニコール先生に、英語発音で名前を呼ばれても、自分だとピンとこない子たちですが、初めての英語は興味津々、目はキラキラ★今後どんな発展があるか楽しみです!



お知らせ&お願い

*連絡ノートはこちらからのコメントをする機会は週一回程度になります。ご質問やご相談のお返事やお伝えしたいことは記しますが、その日の出来事は写真やボードを見て頂き、お子さんとの会話を楽しんでいただきたいと思います。

- 歯ブラシは今年いっぱい使用しませんが、うがいをすることで食後の口腔内の清潔を保ちます。
- ロッカーのケースには『パンツ、下着、洋服上下、靴下、シャワータオル』を常備してください。汚れ、おもらし等で持ち帰った場合は翌日補充をお願い致します。
- 体を使った活動が増えてきます。動きやすく、自分で着脱できる服装でお願いいたします。
- 髪ゴムは飾りのないものをお願いします。(乳児クラスとの交流の際に誤飲の原因になります。)
- 保育園に持ってくるもの、身につけるものにははっきりと名前をご記入ください。
- 5月から新しいお友達が入園し、ペンギん組22名で楽しく過ごしていきたいと思います。
- バス遠足を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い人数を制限させていただくためペンギん組は中止とさせていただきます。近隣にお弁当を持ってお散歩遠足に行く予定です。申し訳ありませんがご理解の程よろしくお願い致します。

♡ペンギん組の目標♡

- 基本的な生活習慣が身につく、身の回りのことを自分でしようとする。
- 保育士や友だちとの関わりの中で、様々な気持ちが育つ。
- ルールのある遊びや模倣遊びを十分に楽しむ。
- 必要な言葉がわかるようになり、友だちや周りの人との会話を楽しむ。

3歳児って…(これからのペンギん組)

- 着替えや排泄、手洗い、うがい、お箸など新しいことが少しずつできるようになってきます。
- 手先が器用になり簡単な絵を描いたり、ハサミを使って紙を切ったりすることが出来るようになります。
- 運動面でも手足の協応動作、ケンケンやよじ登り等目の前の目標に向かって全身を操作してダイナミックに動くことが楽しくなります。
- 感性が豊かになり、身近な人の気持ちを少しずつ理解できるようになっていきます。
- 我慢や許容といった人との関わりの中で必要になる社会性を、だんだんと身につけていきます。
- 自我がさらに発達していきます。自分のやりたいこと、やりたくないことが明確になり、自己主張が強くなります。自我の発達と共にルールの学びも必要になっていきます。危ないことや、してはいけない事をしっかりと伝えて理解できるようになります。



♡大切にしたいこと♡

- トイレトレーニングは子どものタイミングに合わせて進めていきます。まだおむつが取れていないと心配されると思いますが、個人差があります。必ずオムツは取れますので焦らず寄り添っていきましょう。
- イヤイヤ期に反抗期、複雑な成長過程にいる3歳児。でも子どもたちの大切な成長過程を認めて、受け止めていきます。
- 語彙が増えたとはいえ、まだ言葉は未発達。泣く、叩く、噛みつく、物を投げるといった癇癪が見られた時はまず子どもの気持ちに寄り添い、受け止めていきます。
- 自分でやってみたいという気持ちを強く持っています。大人が常にやってあげるのではなく、子どもにチャレンジできる環境を整えます。
- 喧嘩を通して社会性を身につけます。ケガの危険がある時以外は大人はすぐ止めず見守り、仲介が必要なきは互いの思いをしっかりと聞き、友だちの思いにも気づけるように援助していきます。